

# 稲・大豆作情報 (NO. 4)

## 1. 水稻作況情報田の生育概況 (7月24日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 c m	茎 数 本/㎡	主稈 出葉数	葉色 SPAD	
夢しずく 佐賀市 本庄町	6/17 17.7株/㎡ (平年6/16,18.1)	本 年	66.2	428	10.5	40.3	7月4半旬は高温・少雨・他日照で経過している。 ◇平年と比べ、 草丈：すべての品種で平年並み。 茎数：「夢しずく」は多く、「さがびより」はやや少なく、「ヒヨクモチ」は少ない。 主稈出葉数：すべての品種で平年並み。 葉色：「夢しずく」「ヒヨクモチ」は平年並み、「さがびより」は淡い。
		平 年	63.0	359	10.4	40.5	
		平年比	(105)	(119)	(0.1)	(-0.2)	
さがびより 小城市 芦刈町	6/20 18.6株/㎡ (平年6/19,17.2)	本 年	51.3	431	10.9	36.3	
		平 年	55.3	459	10.6	40.7	
		平年比	(93)	(94)	(0.3)	(-4.4)	
ヒヨクモチ 小城市 牛津町	7/2 18.8株/㎡ (平年6/27,18.8)	本 年	32.6	265	9.3	42.2	
		平 年	35.7	381	9.7	41.9	
		平年比	(91)	(69)	(-0.4)	(0.3)	

注1) 各品種 前作：麦 注2) 施肥及び病虫害防除は地区基準に準ずる

注2) 平年値は、過去10年間(H25~R4)の平均値(さがびよりについては、R1年を除くH24年~R4年の平均値)

### ◆農業試験研究センター米づくり情報4号 7月24日(抜粋)

移植日	項目 品種	年 次	草 丈	茎 数	葉 齢	葉 色	概 況 (平年と比較して)
			cm	本/㎡	L	SPAD	
6月19日	夢しずく	本 年	59.8	431	10.9	40.0	[気象] 7月18日~23日まで ◆平均気温…平年より1.1℃高い ◆日照時間…短い(平年比83%) ◆降水量…少ない(平年比46%) [生育] ◆草丈 「夢しずく」で平年並み、その他の品種では低い。 ◆茎数 「夢しずく」で多く、「ヒノヒカリ」「さがびより」では少ない。「ヒヨクモチ」では平年並み。 ◆葉齢 「夢しずく」「ヒヨクモチ」では進んでおり、他の品種は平年並み。 ◆葉色(SPAD値) 「夢しずく」「ヒヨクモチ」で高い、「ヒノヒカリ」でやや高い、「さがびより」で平年並み。
		平 年	60.7	411	10.5	36.6	
		平年比(差)	99	105	+0.4	+3.4	
	ヒノヒカリ	本 年	47.7	497	10.0	40.3	
		平 年	55.8	561	10.7	38.5	
		平年比(差)	85	89	-0.7	+1.8	
6月20日	さがびより	本 年	47.3	416	10.4	36.8	
		平 年	51.3	515	10.5	37.0	
		平年比(差)	92	81	-0.1	-0.2	
	ヒヨクモチ	本 年	45.5	813	11.5	40.8	
		平 年	49.3	819	11.2	37.8	
		平年比(差)	92	99	+0.3	+3.0	

注1) 耕起概要等は前号参照。

## 2. 水稲管理

引き続き、有効茎数に応じた管理を徹底し、生育量・有効茎の確保に努める。  
「夢しずく」は、6月10日移植で幼穂2mm程度、中旬移植はまもなく幼穂形成期を迎えるので、穂肥診断に従い、遅れないように穂肥を施用する。

### ○水管理 ～ 浅水・間断 適正な水管理を ～

#### ・有効茎が確保できている圃場

→ 中干しを開始する（目安は右表を参考）。  
軽い亀裂が入り足跡がわずかにつく程度まで行うが、天候や風速により中干しの期間は異なってくるので干しすぎないように注意する。

品種	目標 穂数 本/㎡	有効茎数（中干し時期）	
		50株/坪 (15.2本/㎡)	60株/坪 (18.2本/㎡)
夢しずく	360	24本/株	20本/株
さがびより	370	25本/株	21本/株
ヒヨクモチ	440	29本/株	24本/株

#### ・有効茎が確保できていない圃場

→ 浅水管理で、分けつ発生を促す。 **深水厳禁！**

### ○穂肥（夢しずく）

- ・ 6月上旬移植では、幼穂形成期に達している（幼穂長1～3mm）。穂肥診断に従い、穂肥時期を逸しないよう留意する。
- ・ 穂肥施用時は湛水し、その後は間断灌水に移行するが、今年は、十分な中干しが取れなかった圃場が多いため、地固めと根に空気を送るため落水期間を長めにとる。

#### 【平坦部での夢しずく穂肥診断基準】

幼穂形成始期の草丈	葉色		施用時期		穂肥施用量	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 kg/10a	BB602 kg/10a
73cm以下	3.0以下	34以下	20～22日	1mm	2.0	12.5
	3.0～3.5	34～38	18～20日	2mm	1.5	9.4
	3.6以上	39以上	施用しない			
73～79cm	3.0～3.5	34～38	18～20日	2mm	1.0	6.3
	3.6以上	39以上	施用しない			
80cm以上	施用しない					

※草丈は、幼穂の伸長程度により幼穂形成期（1mm）を基点に、前後1日あたり1cm増減する。

※出穂前15日以降の穂肥は、玄米タンパク値を上昇させるので施用しない。

### ○除草剤 ～取りこぼし雑草に注意～

- ・ 雑草の生育（葉齢）に注意し、中後期除草剤による早めの対策を講じる。

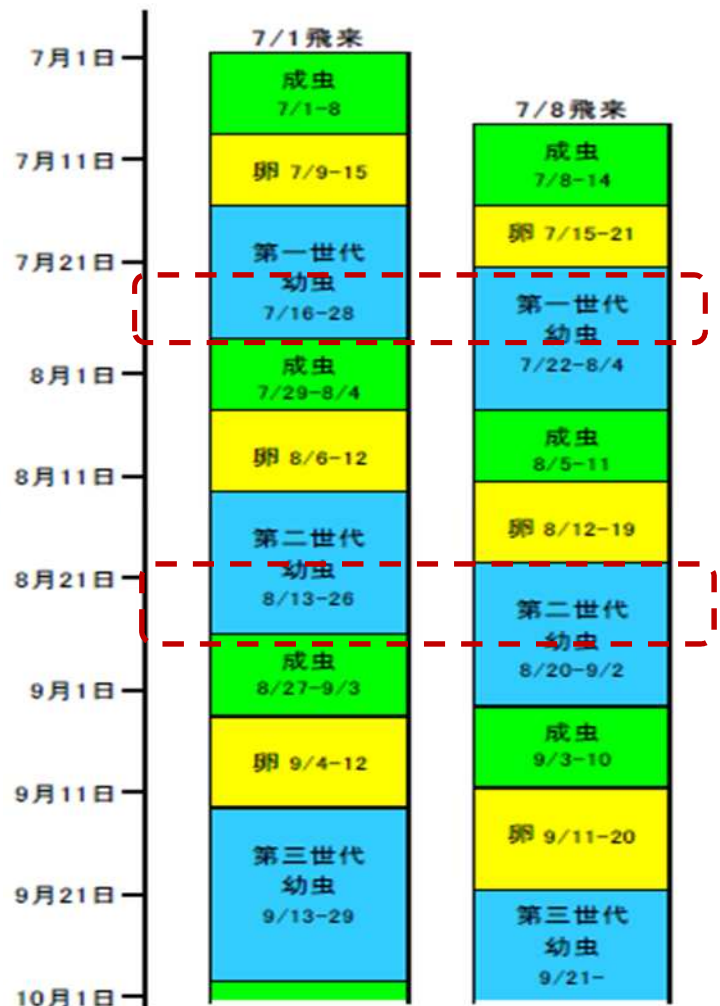
対象	除草剤名	使用時期	備考
ヒエ類	クリンチャー 1和粒剤	移植後7日～バ <sup>レ</sup> ィ4L 但し、収穫30日前まで	湛水散布（3～4日は湛水）
	クリンチャー EW	移植後20日～バ <sup>レ</sup> ィ6L 但し、収穫30日前まで	落水散布。展着剤加用。
	ヒエクリーン1和粒剤	移植後15日～バ <sup>レ</sup> ィ4L 但し、収穫45日前まで	湛水散布（3～4日は湛水）

対象	除草剤名	使用時期	備考
広葉雑草	バサグラン粒剤	移植後 15日～55日 但し収穫60日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。 最低3日間入落水しない。 高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。
	バサグラン液剤	移植後 15日～55日 但し収穫50日前まで	
ヒエ類および広葉雑草	クリンチャーバス ME 液剤	移植後 15日～レヱ5L 但し収穫50日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。 最低3日間入落水しない。 高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。(展着剤無加用)
	ハイカットI和粒剤	移植後 15日～レヱ3.5L 但し、収穫60日前まで	湛水散布(3～4日は湛水)
	フォローアップI和粒剤	移植後 15日～レヱ5L (稲4葉期以降) 但し、収穫60日前まで	湛水散布(3～5日は湛水)
	ワイドアタック SC	移植後 20日～レヱ6L (稲5葉期以降) 但し、収穫30日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。(展着剤無加用)

### ○病害虫情報(発生および防除)

- ・今年の特ビイロウンカは、7/1、7/8の2飛来波が確認されている。
- ・7月24日調査圃場で、ウンカ類が孵化している圃場があるので、発生状況に注視し、適期に防除する。
- ・農業技術防除センターから7/18に情報提供された発生予測図は右図のとおり。
- ・特ビイロウンカの発生予測図は、随時更新されるため、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

佐賀県 農業技術防除センター 



#### 暫定防除時期(7/24 現在)

1回目 7/22～7/28

2回目 8/20～8/26

※植え付け時期などで、地域によって定着状況が異なる可能性があるため、必ず現場での発生状況を確認し、防除時期を判断する。

※防除する場合は、湛水するとともに株元まで十分にかかるように丁寧に散布する。

### 3. 大豆管理 ～ 生育に応じた管理を ～

これから播種を行う場合は、猛暑により急速に土壌の乾燥が進み、発芽不良や遅延が起こりやすくなる。天気予報や圃場条件に応じた、播種技術や乾燥対策を行う。また、近年の傾向から、地域により局地的な大雨も想定されるため、排水溝の整備など湿害対策も講じておく。

#### ○生育状況

7月15日播種・・初生葉展開

7月20日播種・・出芽期～子葉展開

※ 同じ播種時期でも、土壌水分の有無や降雨の有無で生育は異なる。

今までに播種した圃場では、水分が適度であったことから出芽揃いがよい圃場が多い。

大豆は、水分も必要とするが、湿害には弱いため、排水路の整備などを行い、豪雨等にも対処できるようにしておく。

#### ○播種・再播種

まだ播種していない、または再播種する圃場では、栽植密度を増やし、収量確保に努めるとともに土壌水分、天気を考慮して播種を行う。

既に土壌が乾燥している場合は、降雨後や入水により一定の土壌水分とした後に播種する。

##### ・播種量

播種時期 (月/日)	栽植本数 (㎡当り)	栽植様式(例) (条数)条間×株間×1株本数	播種量 (/10a)	施肥
～7/25	18本 20本	(2条)75cm×15cm×2本 (3条)50cm×20cm×2本	5～6kg	—
7/26 ～7/31	24本 27本	(2条)75cm×11cm×2本 (3条)50cm×15cm×2本	7～8kg	BB480を40kg/10a (N成分5kg/10a) 生育量確保のため行う

##### ・播種深度

土壌水分が高い場合や播種後2～3日以内に降雨が予想される時→2cm程度の浅め  
播種後に晴天が続く場合は、4～5cm前後の深めにして鎮圧をおこなう。

#### 💡 順調な出芽となるよう土壌水分の確保ができる作業体系も検討を！

播種後、晴天が続く予報の場合、夜間の播種 → 早朝の鎮圧 などできる限り土壌水分の蒸散を抑制し、出芽までの土壌水分の確保を行う。

#### ○除草剤

播種前・播種後の散布作業は、周辺の作物への影響を十分に考慮して行う（ドリフト注意）。

除草剤の散布は、風が弱い日が多い早朝が望ましい。ただ早朝でも風がある日は散布を避ける。



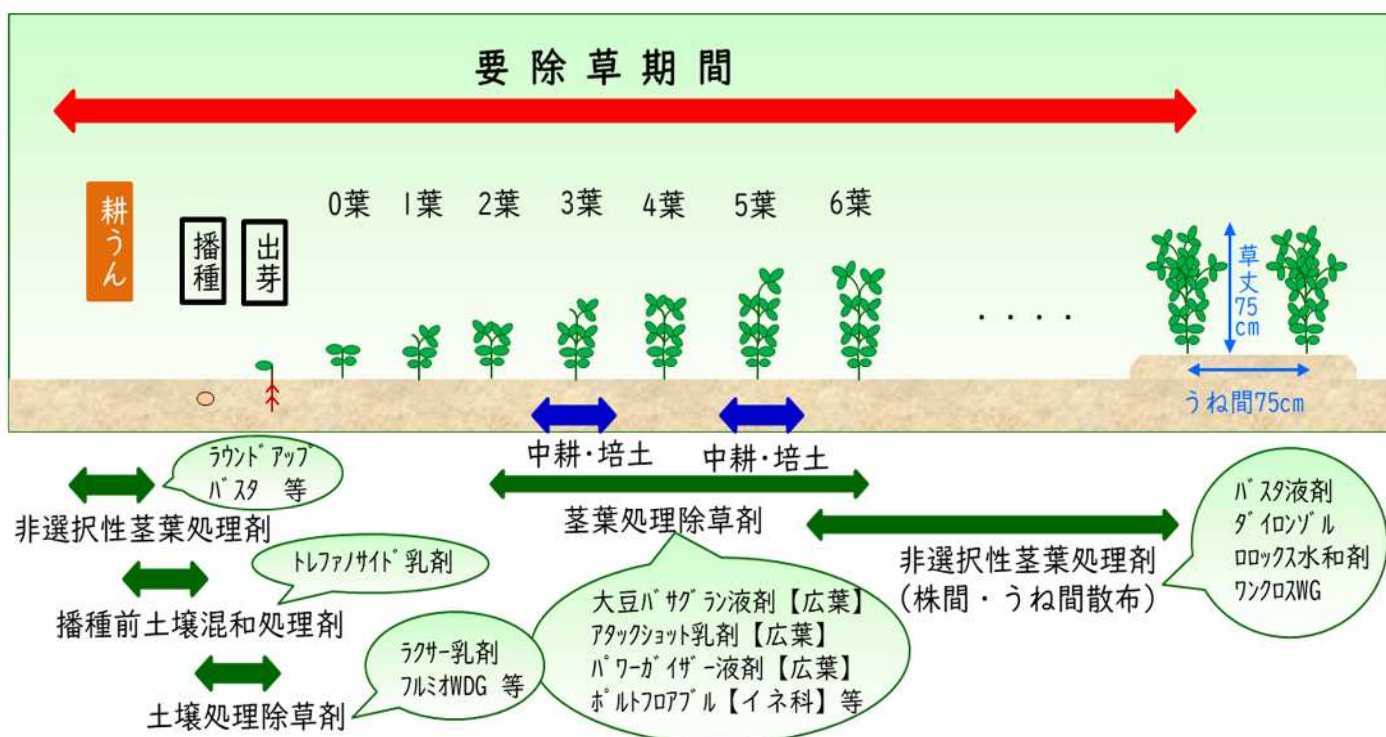
播種前)「ラウンドアップ」「プリグロックス」など茎葉処理剤の散布において、風の強い日の散布は周辺水稲へ飛散する危険が大きいため必ず避ける。(場合によっては枯死まで至る)

播種直後) 土壌処理剤を散布し、雑草防除を行う。特に、近年問題となっているホオズキの発生が多い圃場では、「ラクサー乳剤」「フルミオ WGD」が効果的である。播種直後の散布でも隣接圃場の水稲へドリフト防止のため風速と風向きに注意し、風が強い日には散布しない。

※アサガオについては、多発すると大豆の作付け自体が困難になるため、見つけ次第手で抜き取る。

※すでにアサガオ類が多発している圃場では、トレファノサイド乳剤の全面土壌混和处理(播種前に 200 ~ 300 ml/10a 散布→速やかに荒起→播種)で密度を減らすことができるため、土壌処理剤や大豆生育期除草剤、中耕・培土と組み合わせた防除を実施する。

### ■除草技術と実施時期の目安



令和5年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：佐賀）

佐城農業振興センター

